

公開研究授業に寄せて

(公開授業のしおり「校長あいさつ」より)

ようこそ、本荘高等学校公開研究授業へいらっしゃいました。  
本年度の公開研究授業は、テーマとして、  
「生徒一人ひとりの思考意欲と表現意欲を高めさせ、主体的につなげる工夫」  
～主体的に考え、表現しあい、知的好奇心が目を覚ます授業～  
を掲げて開催します。ご来校の皆様と、「生徒について、授業について、生徒  
が生きていくことになる今後の社会について」一緒に考えることができるなら  
ばとてもうれしいことです。本日はどうぞよろしく申し上げます。

本校は昨年度、キャリア教育実践モデル校の指定を受け、「右文尚武いそし  
みて」を本高キャリア教育のテーマに設定し、取り組んできました。今年を2  
年目(充実期)ととらえて、昨年度(確立期)のものに検証と改善、そして新たな  
取り組みを加えながら、最終年度(発展期)を目指して研究を続けております。

キャリア教育とは、第7次秋田県高等学校総合整備計画によると、  
『生徒一人一人が、社会の一員としての役割を果たすとともに、それぞれの個  
性、持ち味を最大限発揮しながら、社会的・職業的に自立して生きていくため  
に必要な基盤となる能力や態度を育てる教育をいう。』です。

モデル校指定1年目の確立期(昨年)における取り組みの結論の一つは、「学  
び続ける力」を身に付けるということでした。この力は学びの意欲を高め、実  
際に学びに向かうということであり、先行き不透明な将来においてたくましく  
生きていく力、変化への対応(修正)力の育成につながると考えたからです。

そして、今年度(充実期)は、「主体的に考え、表現しあい、知的好奇心が目  
を覚ます授業」の実践です。「学び続ける力」には、学びに向かう姿勢が主体  
的であることが大前提であると考えたからです。そして、本校には一貫して授  
業改善、学力の向上という目標があります。また、昨今、AL(アクティブラー  
ニング)がクローズアップされ、ほとんどすべての学校で実践研究が行われてお  
ります。私たちは、ALが手段として、授業改善、学力向上、キャリア教育を  
結びつけるものととらえ、さらにALの視点が「主体的・対話的で深い学び」で  
あることから、本テーマにも、最適な手段であると考え、今回はALに特化し  
た授業を公開することにしました。

自宅で、授業で取り上げる問題を解いていたところ、家族に「勉強している  
の」といわれました。私としては仕事をしているつもりだったのですが、確か  
にこれは勉強だなと思ってしまいました。教材研究以外でも、考えようによっ  
ては勉強であり、仕事と勉強は同じとってよいのかもしれませんが、workには、  
働くと勉強するという意味があるといえます。そういえば、ワークブックは学  
習帳でした。「働くこと」と「学ぶこと」は同じこと。そうであれば、「学ぶ姿  
勢」は「働く姿勢」そのものです。授業中の姿勢に、今後の困難な社会を生き  
ていく上で必要となる資質・能力や態度を育てることが可能であり、また、そ  
うすることでのみ、子どもたちは予測不可能な将来を力強く生きていくことがで

きるのだと考えます。

私はガチガチの知識偏重主義の中で育ちました。素晴らしい一斉授業、止めどなく知識が飛び出す教師の授業に酔ったものでした(ただし、すべての授業ではありません。直後の学習指導要領は、この路線を一層強くしたものでした。そのため、落ちこぼれなどの社会問題が発生しました)。とにかく、素晴らしい知識の数々を一斉授業ですべて教え込まなきゃいけない、と思っていた系統主義の私が今では、経験主義、課題解決型・探究型の必要性を強く感じています。

それは、昨今の社会の変化があまりにも急だからです。AIの飛躍的な進化、グローバル化の進展、少子高齢化、高度情報化社会の到来により、今、学校で教えていることが将来、社会に出たときには通用しなくなるかもしれません。何を知っているかだけでは何も得られなくなるということです。これからの時代、問われているのは自分が持っている知識で何ができるか、ということ。従って、今の授業においては知識の活用力(創造力、問題解決力、意志決定力、コミュニケーション能力や円滑な協働作業ができる能力、これまでの知識や技術を組み立て直して新技術に可能性を見出すような発想力、批判的思考及び修正力など)を身に付けさせる必要があります。

こうした力(活用力)を総合的に養うためには、ALが有効であると考えました。ALは学びの手段ですが、このALという学びの方法、「どのように学ぶか」を経験・体得することによって「何ができるようになるか」が広がっていくと考えました。また、これによって、学びと働きがつながるとも考えました。

ALを初めて見たのは「質的転換答申(2012年8月28日)」の中でした。これは次期学習指導要領の内容です。それなのに、今や先取りとしてなどではなく、現行の指導要領であるかのような取り組みようです。時代はそれほどまでに変化が激しいということなのでしょう。

ALの定義もあれから微妙に変化しています。今は、「主体的・対話的で深い学び」の実現となっています。高校の学びにALを取り入れることで、学ぶと働くがつながり、先行き不透明な将来をたくましく生きていく力の育成になるはずです。いずれにしても、授業(学ぶ)と将来(働く)が直結していることを認識させることが大切です。

ALによって、困難な社会を生き抜いていく力としての「学び続ける力」を身に付けさせたい、先行き不透明な社会を生きていく上で必要な資質・能力を身に付けさせたい。結局のところ、キャリア教育とは「学ぶ」と「働く」をつなぐことであると考えました。

本日、5教科では、「身に付けさせたい力」を掲げて、ALによる授業実践をすることになっています。そして、総学は「総合的な探究の時間」として、物理と美術のコラボによる教科横断的・探究的な授業を展開します。参観される先生には、是非とも忌憚のないご意見とともにご教示・ご指導をお願いします。

(終わり)